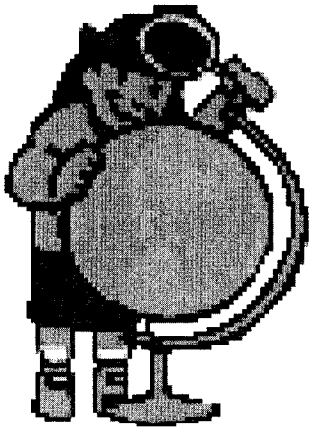
第Ⅲ章

指導・支援がめざす方向は？
～目標の設定～



この章では・・・

実態把握（アセスメント）の結果をうけて、どういうことをめざしたいか、大まかな目標の方向性を決めていきます。

● 目標の設定でのポイント

ここでのポイントをみていきましょう。

目標の設定でのポイント

①目標の優先順位を決める
②基本的なつまずきからアプローチする
③他の領域や課題への影響を考慮する
④次につながるような目標を設定する
⑤日常生活・社会自立といったことを考慮する
⑥子ども本人のニーズを考慮する
⑦家族のニーズを考慮する
⑧立てた目標について他の人の意見を聞く

● このプロセスでとらえること　～「えがお君の場合」～

ここでは先のポイントにしたがって次のような内容をおさえます。

例）

実態把握（アセスメント）では、「漢字が正確に書けないこと」「いつも短い作文になってしまうこと」「図形問題が苦手なこと」がつまずきとしてあった。なかでも、特に本人が困っているのが、「週1度の漢字テストで点がとれないこと」「平仮名だけの短い作文になってしまうこと」であった。そこで、これらの解決を優先させることにした。（→ポイント1）

漢字については、「週1度のテストに出題される漢字の習得」とともに、「3年生レベルの復習」から始めることにした。作文については、「内容を脹らませるスキル」を具体的に指導することにした。（→ポイント2）

漢字を覚える際、本人の得意なやり方を見つけることができれば、形の理解といった点で共通する図形の理解にも応用できるのではないだろうか。（←ポイント3）

また、現時点では漢字の書きについて取り組んでいこうと思うが、将来的には、必ずしも全ての漢字を書くことができなくてもパソコン等を用いて（漢字変換しながら）文章を書くことができるようになればと思う。（←ポイント4）

本人がもっている不器用さの問題とあわせて考えてみても、パソコンの使用等、代替手段の利用は、日常生活・社会自立の面で有用だろう。（←ポイント5）

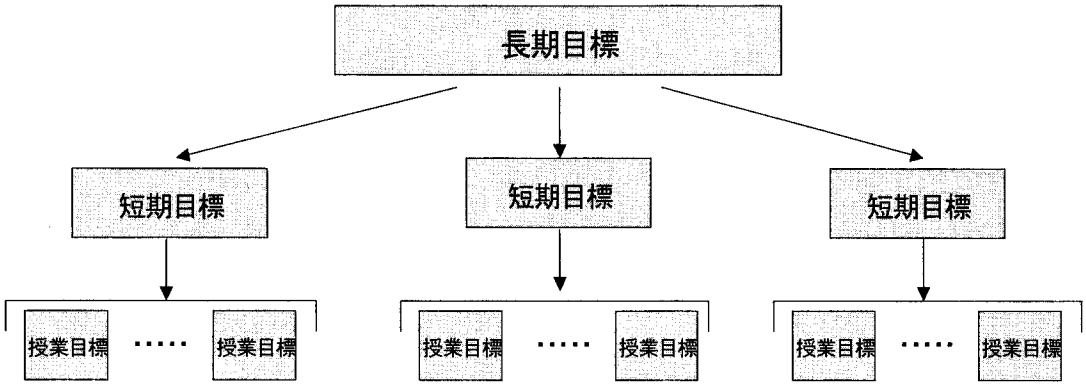
これらについて取り組むことは、子ども本人や保護者のニーズとも合致していると思われる。（→ポイント6，7）

このような目標の方向性について、本人や保護者へはもちろんのこと、チームティーチングで入っている先生や通級の先生たちとも話し合ってみた。（→ポイント8）

● いろいろなレベルの目標

目標と一口にいっても、いろいろなレベルがあります。たとえば、長期目標といわれるものは、いわば大きな目標であり、大方約1年間をスパンとして立てる目標です。 短期目標は、小さな目標で、かなり具体的、学期や月など短いスパンで立てる場合が多いようです。さらに、授業計画目標は、日々の授業の目標とも言えるでしょう。 （短期目標や授業目標は、教科の単元と関連させて立てることも可能です。）

これらは相互に関連しながらも、階層的になっています。最終的には、長期目標（ゴール）をめざして、具体的に設定された小さな目標をコツコツとクリアーしていきます。



いろいろなレベルの目標

● 目標として取り上げる領域

本書では学力や認知能力に焦点を当てていますが、その他にもいろいろな領域が個別の指導計画の中では取り上げられます。従来長期目標や短期目標で取り上げる主な領域には、以下のようなものがあります。このように計画を立てていく際には総合的にみていくことが重要です。

個別の指導計画で取り上げられる主な領域

学力	(「読む」「書く」「計算する」など)
認知	(「抽象的思考」「記憶」など)
心理	(「不安」「自尊心」など)
社会性・行動	(「対人関係」など)
言語・コミュニケーション	(「自己表現」など)

● 長期目標の設定の仕方

いきなり詳細に目標を立てることは難しいでしょう。逆に、その時々の状況で目標を立てていたのでは、体系的な指導にはなり得ません。

そこで、まずは、大まかな目標の方向性を定めていきます。これが「長期目標」にあたります。

以下の用語は長期目標でよく用いられるものです。

長期目標でよく用いられる語

- **知る**
- **理解する**
- **応用する**
- **使用する**　など

上記の語を用いた具体的な長期目標の例をみていきましょう。

長期目標の例

＜読み＞

- ことばの意味を知る
- 書かれている文章の内容を理解する
- 教科書を読む際、読み飛ばさないよう指でたどりながら読むなどのスキルを応用する

＜書く＞

- 書く際の手順を知る
- 文法的なルールを理解する
- レポートを書く際、自分の言いたいことを論理的に示すなどライティングスキルを応用する

＜算数・数学＞

- 算数に出てくる用語や記号の意味を知る
- 概念やプロセスを理解する
- 概念やプロセスを実際の問題に応用する

＜理科＞

- 理科に出てくる用語の意味を知る
- 概念や原理を理解する
- 概念や原理を実際の問題に応用する

● 目標を考えていくうえで大切なこと　part1

目標を考えていく上で、大切なことをいくつかお話ししたいと思います。

1つめは、目標を設定する際、学習の過程について言及するのではなく、一連の学習を終えた段階で予測される成果・結果について述べるということです。これにより、目標（子どもが獲得をめざすスキル・能力）が明確になります。

また、短期目標でも同じことが言えますが、目標はあくまで子どもの視点に立って設定するということです。関わる側の指導目標ではありません。

さらに、1つの目標に対して、2、3の要素（成果・結果）をもりこまずに、1つのことについて述べます。これも、目標をより明確化するためです。

Quiz

どちらが、目標の表現として適切でしょうか？

＜1＞①基本的な概念について学ぶ
　　②基本的な概念を新しい問題で応用する

＜2＞①数の概念
　　②数の概念を理解する

＜答え＞
・＜1＞は②が正解。①は成果・結果というより、学習過程について述べられています。
・＜2＞は②が正解。①は単に学習する内容が述べられているに過ぎません。

一人の子どもについて複数の人と話すことの重要さ　～　研究結果から　～

子どもについてどう支援したらよいかと迷っても、先生方は一人で考えたり、悩んだりすることが多いのではないでしょうか。

そんな時、他の人とその子について話し合う機会をもつことは非常に重要であり有効です。複数の人と一人の子どもについて話すことで、今までになかった異なる視点が得られたり、あらたな要因がみえてきたりします。また、支援に関しても、複数の人とアイデアを出し合うことで、バリエーションがうまれます。

個別の指導計画を初めて作成した人に対して、個別の指導計画を作成する際にどのような支援をすることが有効かを調べた研究では、「複数の人と、一人の子どもについて話し合うカンファレンスが非常に役に立った」との意見が多く得られました。

しっかりとした話し合いの場をもつことは難しいにしても、空いた時間を利用して他の人と一人の子どもについて話すことで、得られるものは少なくないはずです。